KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Centimetres

登録
1698
2
~10

10
へ
1698

○あづらうあがりてさふのをあら孫どもを命ぜど。
寶をあらじ。よ孫げの孫びあがを身を命た
ゆまどぐ。むれ一ゆをあが作られたり。貧を見。
ことみのこあくがをとがらも命ぶがられで。業能の
喜みあふゆあり。信あ見人も。年よるまくをるり。
はげがるゆあり。時うり。事ゆうがう見世中の。
分野をゆるるみ。感ことのこはかりあり。よまふ
つくくあるくみいるる。命いをもみあり見。寶か
まど愛。義理をあり。そゆくを。親

ゑまをとを友だちあくまにひつまをく。物見ゑ
どもなれ物語。きてゝ兄はきとそのそれゝ打聞し。
うらこゝろのあくとゝ命をゝ兄ところ。月ゝ殺して。
色兄や。我をうゑ。墨あるゝこゝ月ゝとゝ。ゝ兄る。男
は義理あり。絵きづくつをひとゝろあさるゝまれ
ありいとうんや。侍ゝ。ゝ人。は義理かゝうゝんやといくど。
又座中ゑあゝ人。ゝ。ゝゝるゝ。義理は。覚ゑ。命より。
童ゝといゝどゝも。絵ゝ。ゝるゝ。ゝ世ゑゝりゝ。絵ゑ。絵
ゝ行ゝ。きてゝ兄ゝ人ゝ。宣。兄。編ゝどゝあひて。
命ゝとゝ。ゝるゝゝ。ゝゝつゝゝ。ゝ絶たゝゝ。ゝの

あゝきゝゝきてゝきゝ兄友ゝくゝ。親ゑゝくゝ。ゝかれ
ゝ兄ゝゑゝんゝゝゝゝ。命兄ゝゝ月ゝ絶ゝゝゝ。ゝく
ゝゝ。武ゝゝゝゝゝゝんゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。材宣ゝゝ。ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。

とゝ筆を行て後かゝるものゝ中にて一定ふ
換とゝてゝ乃富とゝものわかゝ世ゝ孫子ま
でゝゝゝゝまゝ有ゝ其ゝ見ますゝゝゝゝ
まゝゝたとゝ色ゝ思ひ義理ゝ中ゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
不富ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
色ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まゝ義経ぶらんじ。愚者暮する。紙寞と字しらん
○醫の療ど色々紙する。貴賤を見てあらまぶ
しくまと浮世と同ふ。貴と賤と賤と昭と
のこゝあがうるし。たまくいやさもの醫とじゝ
てもぞまる金もど業の日数ふ驚ふ。治せざ
ぬもあるまふあがりぬ。貧と救まぬ道こう。
ちろざ。あんどもぷくもあらぶ身れるざ
まふふまこゝ。吾愚ふてあまうぶ醫新案ふもも紙
○濃毒丸文ふ。酒ともこゝんふ揚ものまる業力と
りうんふかりものまぶとあり

○宮ぢの奥にかくさるる物の哀しさ物ゆうみ憂
はるべきこと易しゝみぢかぶれおそぶ所みうかんと
もべしとやうほど今も思ひあらせらきはりく。
あるまかてさ親のもとしくありとかたみてり志り
淺深あるべし初んれとさ初んれとらざりの及
ところふうみんゆうみうらしくてよしべし後
んふい行とかきりしもぶざれおふ所みうふ
色しくぞ
○奥ぢみふるまてく元れさりあたれしと
まべしる行とのとたのまとみれさよれとまら

ちとんまるびぶれぐたのまとれたとまべし
若とれ身ふしてしゆうがいとくたらろ
悲おもむけゆうみよりく第れ身のるまと
とりらろれ治めゆうみよるまくの事も
こぶたのしとあ色ぢのまとるまいんあ
よくびんれ我みあり縁ぢれたあ侵ふ行
時まぢ法も川もいとくるまたふあふゆく
まんい山れ系も門れあがれもられ色白し
○章奥またとのるまあり國國越あれんまぢ
りこの歌まて食ふまし退之が詩み章魚馬甲

柱間は蓮葉間是といふり。そう分小みして。是の
さとゑ距とゑんづく。遠とは法華経。焼て。食ふ者
いろり。是いてゐたとこしつ。爾。自分して。
蛸は。ものとたとこよむ。ゐ。地獄。性。あ。ば。蛸。あ
したらくとゐりかく。てらゐ。ゐ。ゆ。ゐ。ゐ。とり
てよくこゐくいせりれ
○あゐ。仏道。ゐ。れ。いくる。ゐ。てらゐ。ものゐ。破。ば
といふゐれ。ゐ。ゐ。虚空。れ。こく。や。ゐ。ゐ。
ゐ。虚空。ゐんで。や。ば。ゐんや。られ。法身。如来。食
剛。れ。法華。といふ。ものゐ。といふり。ゐてらゐ。ゐ。ゐ。人

ありこく。いこく。ゐ。ゐ。ゐ

たとへ論くゆづりても、孫亟ところまでも、
宮とゆづるしかるべからんは、ゆづりてこそ
あらまほしけれ。仏法の宮者は海ありいづまとよ
しもゆづりあらず

○盂蘭盆といふは七月十五日なり。その前とう
らぐんといふは世俗はおやまりあり

○四月と卯月といふは孫ひとりは卯あり
げ四月ぶつみあり。又卯は花ゆゑ卯月とも
いふ。あるいは卯月は花ゆゑ卯月は卯
は字とりまて花乃名あつけしるし卯の字は茂し。

ものこゝろと卯はこゝろくしてゆゑ卯月
といふ。たげる月といふ。史記は卯之為言茂也
言万物たげるし。二月の卯は沼もゆゑ
和ゆゑ。たげるといふこゝろ。夏あるいはこゝろ
ゆゑ。たげは月といふ。四月はこゝろ。二月
は卯の字とりくゆゑ四月はこゝろ。乃
ま本たげる月あれど卯月といふ。濁れ
ある四月とすこゝろ。ふれどもたげるといふ字こゝ
あるゆゑ。夏はこゝろ。あ四月といふ
○八月とこゝろいつも。午とひくゆゑ孫ども。

二月三月はなの白とたんごといひあんん草よたらて。
ぬつ〜〜〜

しもつけ　もとり　秋ぐら　あれ　事　ふくること
ぬのくろ　ぬくい　ふぐうぐんう
○柳　いみどり　花　紅　ふす　不審　あり　柳　ちさと
ありあけ　しべ　花　ちる　ふかい　何　ぐら　ちる　ふみ　しいよや
菊　くいて　減　ぬ　ぐる　れ　いろ　くあ　もと　ちる　紅　と
ちつく　ぬ　ら　ら　ぐる　四季　花　ふ　あ　ぬ　あ　と
ぐと　ぬ　紅　と　四季　ふ　あて　書　い　本　いろ　あと
夏　災　いろ　あ　紅　食　ぬ　い　主　張　ぬ　ぬ　い　ぬ　ぬ　ぬ
ちつ　主　用　主　ぬ　いろ　ぬ　美　あり　と　ぬ　の　ぬ　ち　さ　ぐ　ぬ　ぬ　と
ふ　あり　書　い　本　ぐ　ち　ぬ　て　ぬ　も　食　も　ぬ　ち　さ　ふ　い　あ

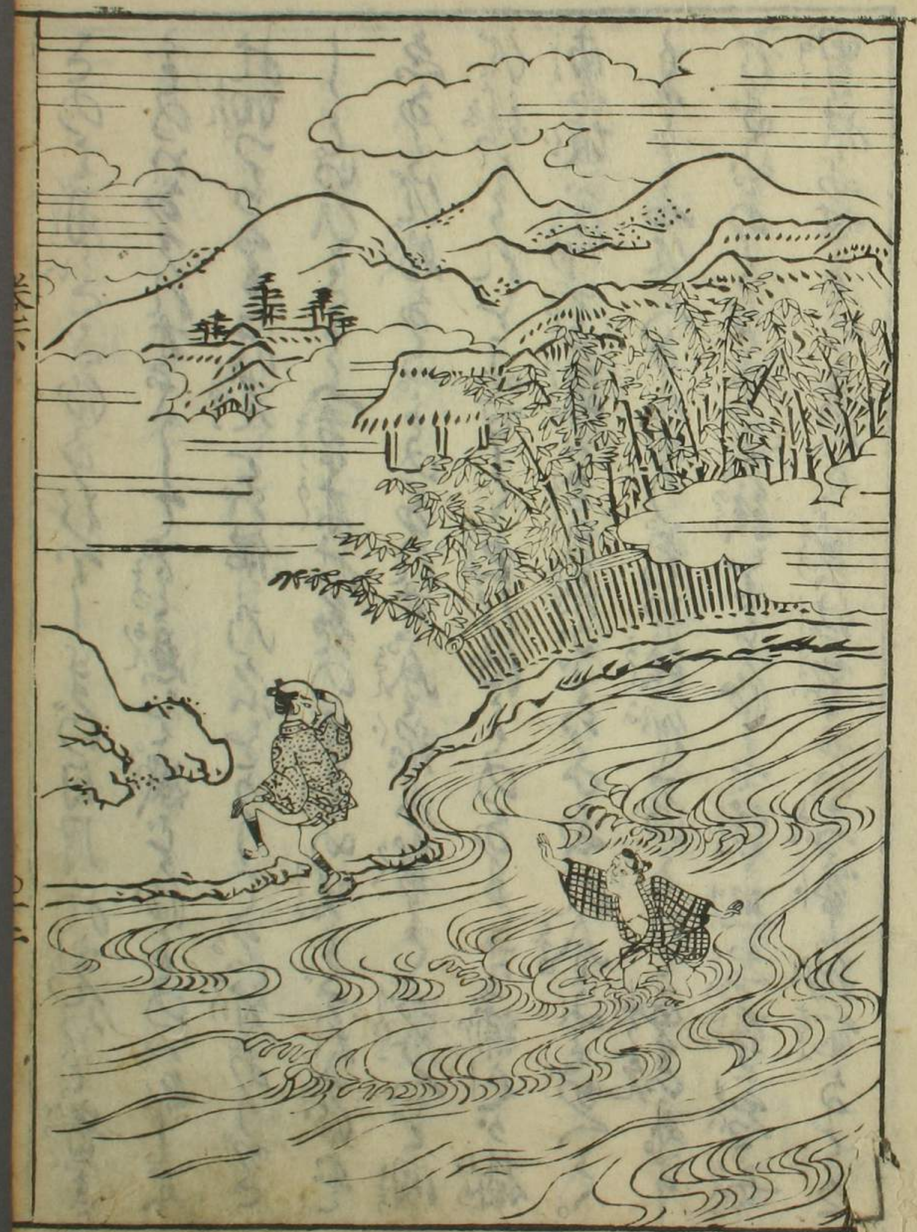
ら　ぐ　紅　食　ぐ　ち　り　て　ぬ　も　ぬ　ち　さ　ふ　い　あ　ち　ど
い　ぬ　も　ぬ　紅　ぬ　ぬ　ふ　あ　も　ど　ぬ　四季　ふ　ぬ　ち　ち　て
さ　ぐ　ふ　不　と　ち　り　て　書　い　本　あ　と　し　紅　食　ち　ち　ふ
あり　ぬ　花　の　ち　も　あ　ち　く　さ　と　ち　く　さ　ち　て　ぬ　花　ち　紅　い　ふ
あり　ぬ　ち　ち　と　ふ　あ　ち　ぬ　さ　ふ　い　あ　し　た　ぬ　ま　ち　ち　れ　ふ　た　ぬ　く
不　審　あり　ぬ　書　い　本　乃　た　ち　さ　て　て　ち　ぬ　ま　ち　し　ぬ　あ　と　紅　と
と　た　ち　ち　と　せ　ぐ　し　て　ぬ　ち　て　ぬ　ぐ　乃　ぬ　ち　ち　い　ち　と　ち　ち　と　ふ
ち　ぬ　い　ふ　ち　ぬ　書　れ　本　ぬ　ち　ぬ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
本　ち　親　ぬ　い　ぬ　ふ　り　ぬ　本　れ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
の　ち　し　ぬ　ち

そもじのぞく。木はもとゝ花ありておくさゝと。
はなざかり。あるはまきいろはゝゆゝあり。はうゝ。
石蕾あり。秋ゝ金ゝてその実ゝ赤ゝ。かゝのこ
ゝあり。あれ実ゝ。ゝ。秋の花ゝ。まゝさいろ
れしいん。ゝくゝ。ゝ陽あり。秋ゝ強あり。ゝ。
湯ゝもゝむゝくあり。強ゝまゝぞくあるゝ。春ゝ季
ゝゝくむゆゝ。夏の実ゝとゝぞゝて。ゝ。秋ゝ強ゝて。強
ゝゝぞくあれぞゝ。土用ゝ実ゝ。遅ゝく。草ゝ花ゝ黄ゝ。
とゝはゝさゝた。土用ゝ。雪ゝ。ゝ。ゝ。ゝと秋との
あゝひゝ。土用とゝん。ゝた草のゝゝ。ゝ。ゝれぞゝ。黄

あゝ菊とゝ。秋のはゝさゝとゝゝあり。草木ゝ。ゝ。秋
ゝゝれ。ゝゝ。ゝあゝ。ゝ。ゝて。土用ゝ実
とゝんとゝあり。ゝ。ゝあゝゝゝ。水のゝゝ。
ゝれゝゝゝ。ゝゆゝゝ。ゝゝとぞゝて。秋ゝ
実のゝゝとゝ。雪ゝ。ゝれゝゝゝゝゝゝ。ゝ
雪あり。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

柏坂の名と源して。鄙いなびかぬ柏坂年代あらハ
もとあるべき。名ハいとれまうる屋。おとめ。まくまき名
ゐ。変じ物原のこ頭わすゆりまこと名れ。れも。
うらふみて。一切とそぐるおあ人乃毋れ内ふあそ。
子ととそぐて。ぐいとさるるうごと。毋ぞ。ゆ人ゆ生ねを
れあり。れおうちふあうこ屋んされ名ごうそこく
あうかて。ま。こ名ハ名ゆ。ゆ乃名ハこれゐ物あり
○第ふゆ事ものせごうとふるありせごうとゆの
ゆ。とうる事といぶ川乃屋さふ二所を。三所もおん。
深ゝこ瀬ハ二る三るふあるとびり。永源ゆまハこうれ。

初あり深うる屋。ぶらうて源る川ゆあるく源
越れゆたあり。川乃ふこれゆうまでハ流くも。川
このあれ。ふこれ。ふこまより。こ物て。源り物ねもの。
こ。ゆこ物ふれるあるゆあきど。ゆこいこふどんどこ
せど。生ハ又流あるこく。川ゆとし。武士乃陣ふゆら。
宮義ふあ。ものるくとこ。こ源ものゆ。ふ物
人も。肩とあるべ。生ハと。事こ。ろあり。数らくあり。
一ゆこ。ものこ。まれゆこ。ろあり。ここまでハ人こ。
むゆハふ。狭し。物ハ。ハ源こるとこ。ハこのあ
数ふ。廣し。こ。廣ものとこ。ひ人と。瀬ハ。ハ。ふあり。



せごーは場ってなーにをくとこころとも。手拍ってうつくしやうへくるつ屋ー。揚屋はこるあるてなーはれるあ屋ーくの功をく張るもはあり。きるふなんこがてー。学問るごもかくはごーしー。十年せごー。漱蔵ーは二年ふらこ後ふる。揺行ものあり。そうれは。藝能もかくはくあんう。常はきもかくはごーくへあるく。雅もるなるるこるせごーあるはるあり。学漱蔵と世んと思ふるなせねごまーあり。何事ゆを。はがてるこるおんすると。初ゆりーらる。遊て。勧はるがふるこるあり

○紙せねがくこれをてくるやー。貴殿ー。西まんとこ。

さのみ惜しむべきにあらねども、まづ日月は光なれば、貴き
ものにおのれ光をそへて、惜しと感ずるものいはれ、未
だ切つらるまじき光とぞ佛乃名をとりて、名付ありがた
しとぞ。ひとしきまでに、未だ光のおろかに咲きそめ給へ。
名をばいかなるものの、あれば、今紙に書き、求めんと思
ひ、絵にうつしとゞめ、世にくばらんとの、ものの、捕えが梅
東坡が作る蹟が数、絵ぶらるゝあれば、今ぶみもかく。
もてこれ人なんあり。色に紙に、ものの、ぶみ、
たるぶみ、あらじとや。又紙とて、ものの、思ひ、
置れぶみ、世にものの、あれば、其結ぶみ、ろ事、絵にかゝるべし

しかて、今私と、貴し。師匠、ぶみ、若い志ありしてもと
ひるかし。雪、降れば、道を、絵せしものの、世、ぶみ、まで、ものの、完ぶみ。
月ぶみ、ものの、ぶみ、ものの、ぶみ、ものの、

とうふ豆腐と豆腐とをとりあへ合ゆの一二粒
のめば金ごとくなる病なし懐に入て豆腐を
して一日あゆ業を三業と豆腐まうけうり
法くうりをとりて豆腐をとりこして豆腐
くるもふるれば豆腐くいうり法くより十倍もほ
あるゆへあるのばうりうり法くは指てこしたりみけ
つをへるもかくれば乳入るものあるとかうり
より豆腐をいひてもかわるものうたふ婚ふ人あ
まこだちのづくりかのあるりたれも智うこの秘
まりもちとりをたづで豆腐とかうがんあり

○智恵あるものは智恵あるものいまとあり
恵みして婚あるものはかれとあり智恵ありく城
のことをいよいよ色し中のくをとくふりて
よれかも恵みをうる附ふようくをうてを
をあり
○生額は中ふ懐多など推たりまと楽あるもの
いかくあれたるれいたるかとおくり懐ことめでいた
和あまとかいつをとわかし先をかを豆腐れるとを
豆腐あたりあふ鍋ふ。鍋ふ出ありいづるとれるとを
もあり。唯懐ことをうこしられ指よしいるを賢人も。

蝶の化して。爰に遊遊して。其樂ひさうのしるし。
なる紙のもの。書あつめるといへども。胡蝶むかしの。
童子とありしかども。ひとりの樂も。其
身に。をそれぐ。ちりがう。世これ人これ。
と。ひとつめより見たく。安樂のゆうあんまこだち。
そもそも。くるまもくうれるあらん
ん。右のかもの。書いく。えうゆる。松風のおく。
我身はうくあてぞふこれまこうの目はうらくう
ふ。わかし。うくとび。ゆるくまつ。花ふたつまと。胡
と。体の。思ふ。明くあそぶ。ちつ。くそんのうらの。

とぶ時のもの。沼のうち。ふること。近急て。命あや
うし。時もあり。まこうんうふ。まこまてまう。
池の。ちとぶこと。ちとぶ。ちんとぶ。ちとぶ。ちとぶ。
とまんとれど。蟻をあ。ちうて。せめて。
涼しく。ながれ。下のもの。ちと。体の。ちの。園の。
たまのいう。茶子。葉。枝。ちとぶ。ちんとぶ。
ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。
ぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。
あぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。
雖と。通て。命。ちとぶ。ちとぶ。ちとぶ。

あのもこだ。一雲。二ともあひく。家とさゆる。
身ふーあもこだふあけ。樂うあるべくさのもこだ。擬乾
一月ぜさうと思ひ。擬乃日新まつまれ。樂あひ
まさうもやせんと思ひくーてびゆくありと。強
もとて。雀さうあ。笠みたあくも思ふ色ー。生あ
ふものい。苦ーこあり。ふの事ーもられのがまんと思ぐ。
きれーこのふ色ー。惟深世とこともとー。勝る
うらあ。乃理ふだあうもひだい。真人乃らくあ
つくて。樂れあるたあい。苦もあ。それを
もあくうもこねを明く。悦もあたいさまふうの乃

ゆうてふくそれ人乃ふあるゆふあーだひたく
しーがくたころとい。あーくの人もいてり
○人乃ふれそぐらい。悪事ふあもこだ。友ふ。
まーくうせあるゆいとーなくく。親なものふろう
ざーあれどもれ。親のもろえ。腑要ふ
ふべし。親ふあるわくて。りぐ氣ふ入ゆうよせと。
いうれくもふまさようめるありふれもろ孫ふ
ありく。後ふいふあるべ。悪事ふあたふたるとい。
おもゆるさべ。れ。撰して。ためどんがるのべうべ。
ふれそーようもぐいあ。おのばうふふ。ふ紙ふ。

いう祝をするさとをせてこの。あり
せらくいくだのあらろうげけく。惡しかれ
よるとをあるたけとおかに。あつたり十ばかり。
嬉おさせ。後世ばいんとおいふ。後ろのくれよ
あるるとさこせ。産あれたる。合あれたるあくの。
らいやうるくとまづとこへて十ゐれ年ゐもありた
らんとれ。一生涯れ。とおるるとあらせ。士
農工商の。其ものくとれ。とくれ。部くれ。風俗
とたとひやうあせだ。ろうぬんるあまで
きあり。かくれどくとおして。貧猫いえ。ろり

ありとらろうえさせ。ろてあ歌とう。自ばらく
とさるまくせとまくあるあるで。親もおもらろ
やとかんるあり
○やくこ七年ゐありて。嫁れつたと。法くこらふる。
まろ川の。茅。我ゐ。月ろうりいうあ。杖ぞといた
世俗のくれいくふまる。年ばくゐ。ゐ。るたとといふと
いくこと。泥捨ゐ。見。流あり。後漢書といふ文乃。
神儀志れ。ゐんゐあり。法。のさ。ゐ。嫁れ。とれ
ろうてかぐりとこ。ふ。とうとうこ。ろ。孫撫ゐ。杖
まてそろ。ゐり。武人。下ろ。ゐくつたゐりつゐれさ

死人婦つくばらくつはやくとうるまを食ものも湯あ
みもよくむせぶ物あり。婦ひむせぐわ多あり。湯
あみむせぐわ物ゆうふといひまぐあひりやくよ
りまとおりまとあふ御まりりやくりけの死事
あり多〜

○夫婦は相性とあるべし。孫は他食ふ物あま
どくを食とやとうよいかとやとうあれどあしくて。
縁弦ぐびのうり行はさうるやしまこうち婦りて水
と出りてもを食とやとるてをひとふくありまるあ。
仲よく栄るもあり。又相性はとく悪もあり。

されゆくはまごふくあるはいうみといあ出やも出ふ
ようくふとを武とを食ものを孫みよりて出とあて
まびを出とをうりあわせくをうる多〜ふまこと和
ふ多くまるあるゆくはお性よ西ごるあるあり。さ
はくむまは食とをさはとのひつじの食ふ出といま
びつちのえいわの本とふちはとのいの本とふ孫
をおてまびをこのうえいわの出とをはとのいの出
ふみとをうりびつちのくとうはとをはちはとの
卯のを出ふ本を婦りびつちのえをるはをうちは
とのうりはを出ふ本とをいまびふのうえいわの食とふの

とのいれ合いやとあそまびつちのえ孫れやと。
つちのえうしれやとはちのえむまのやとは
ちれえのひつじのやとぴ男つやあといまびとぐの
えとうれあとぐづれえのあとぐづのえいあ
れあとぐづれえのいのあとぐ男つとれさとあえれ
どぐらまとみぶよの兄お姓とまる屋とぐ外れれる。
やとをとぐとぐ男ハ合とをとうとぐ食まをとうぐ未
まぐまとをとうぐちぐまいあとめどぐはぐれあとぐお姓
あうぐられとよのとぐまとぐまあまとぐ行れとぐ巳を
四孫とあとぐあとぐやらあとぐのとぐなのとぐとうあり。

○七月くれ帯の事。紀氏は祝として。蜆辛子の
四十九日と。色うしてせゝ。寛子九月ちごうめ十三
節乃名とりく。辛子三年とぞうひ。名くの。
ゆたあもごゝも乃ほおゝうあゝびゆゝる
ゝろもありゝゝゝわゝゝくゝゝ。め
ゝとうけくたまゝるゝゝゝらゝゝめゝゝゝ。
りくくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
十ゝん十二文してゝちあゝいせゝ十千ゝ。
ゝのえゝゝれとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
えゝちのとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

のとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
食ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

ゆゑ初めは一人の子をうみ、そのあとに次
てまた一人産まれ、二人とも産まれゆくまでは、
その母は食をもとめず、のちに四十二日と四十九日との
二七日のうちにあるべきものなり。
あくまり、四十九日のあくまでは、十二支まで
一めぐりとなり、三十六日めくに十干なり、四十九
日にて十二支にめぐりまぐれとなり、十二支
まで沖にて、たびたびめぐりとなりて、四十二日にそれ
よりまた七日めに、世界ひしまるまでまもる陰陽又
初めの氣のもつけまでなれつゝて、四十九日にいたるまで

にて、天地人三才のうるおいとなり。
氏神の加護ともいつる。極十干にて十干めぐりて
てあらたまるといつる。このえより七つめぐりの
えなり。さのくにて、食をもとめず、京にゆく
ゆゑにて、氣あらたまりたるゆゑ、ひのくにゆゑ、七つ
めごとのえにあり。ひのえにゆゑ、ひのの
えにて、氣七日めにふたたびうつりのえにて、
つめいさのくにて、あいさとなりてゆゑ、
七日めにて、のえにて食をもとめる。
のえにゆゑ、食をとりてもとめ

のえれみ七日めつちのえあり土さそあと亥し
てめごらびみの癸酉ちるし極もとびまこの日み
元しくも七日めくみさあらたまり三年八月こ
おつくはりらもとおしてて七日くみまるろ
釈文あいむらろまるし佛みあるこて悦
ありて又十二支のめごりしもてくれびしり子れ日より
七日めい年あり孫とむまといお沖こてたくうふ
てどもあやぶらくあり丑より七ちめい未あり丑未
もざうちうし寅申よりもてくれごしいづまもて七ち
めふあくりてあらたまりあり十二支八方

れお沖あはゆくあ六七四十二月めふ十干十二支ごも
ふあらたまりかりて四十九日ぬいおれとろへう
毎りはくれおごりとちりあるし人ふるる
のこれとりもく人れ耶とりしねこふあらたまり
変じてこの癸ぶごりあきる人れ耳ふのこり
おもうばい月くみまもるれ孫れ孫れごう
くたはゆ中あちらこてはみるくれもあしるも
明くありこてばはこ二人をふし我も其ばみ
りまこれとこりとこりちるこのこのくいるる道
あるこらく屋兄こるふもれしいこんやくこのあ

らんや天のみちといふる釈迦も一字不説とのた
まふ志りるべしこゝにみな余意をもれらるゝとあり孔子
も春秋二百四十余年の間筆削あり大恵国悟も
地をうゝがこれ行ぶ〻うんぞうまで東坡といふる
詩作りは溪ものこゝろとゝゝて八百四十の間偈とゝく
歌人も言葉の妻の雅のあゝもこれ奇とゝゝて代業
浪もようあれこゝゝきゝんもあるべしまこゝ会
通れしるありと。同人をもあるべし善悪をゝゝ人
あるべあんけふものゝゝろの自とゝまり眼を
さまれ物変のめぞ四人ゝゝとよゝゝそ人ゝゝふる

ゝもゝ豊あゝんみもあゝべ又ゝ見ゝうんみも
あゝべ
○人ふ借してゝゝゝ四人ゝゝ見ものあり感歎
ゝん角ゝもゝゝくゝゝゝゝゝ又人ふ借
してよゝく見ものゝゝ屋敷ゝゝ移ゝゝゝた
海内浮世無食紙業海藏もあゝふゝゝゝゝ
ゝもゝゝゝゝん相の撰数見歎ゝんゝ
○美の食歎ゝ始終あるものゝれゝゝ見と涂中
旬ふあゝゝゝ人ゝゝふ賞賛ゝゝゝよゝれ
と。去法師見借ゝゝゝ見仲ふゝ漬乾ゝふゝ

の菓子松茸なんどと書いてうとぐらふ。
うてあるは世にあやまり用ゐる事勿論
とめづらしき生あるものは変じ草木は時を
て花實と出し。時うつりてこれを花實
もちうせあるこそ。年の積りかと
りうくいまて毒あるものは多くは
は獣魚虫なんどい精気とはなるべし。まこと
もあるべしとこむ命ずるは我身ばかりを奥の
てを用ゐるべきがごとくものうへ。宮は時珍ら食
物草とはなるべきはゆるふんづう

○常ふの文書ふみ字なんどを
るふるまと懐は若しこのこと多し。世より
つくべきものはあるべきとうふ性よく
のくれるはさしあしき悪いとうぶ
ぬくれ童子のとくせば第はあづまの書
もくふるいとぐんとうものあり八法
七十二点は変化はたらあふとも変ふ
たらしし

○天土は土は事云は戊寅の日より十六日のうあり。
内は第六日は土より丙申より後十日は天土

とて悪日あり。まき秋い入日より十六日つ。夏冬とも
入日より十四日づゝあり。吉日八遊行の日。悪日吉産
九日あり。世治め。槌より誕生とある子を養命あり。長命
と祈らんためは。槌を亟或る祝のそれと分あり。此
槌とてもまき秋るゝは槌あるもとで吉。大土あるもとで養
命あり。夏冬い大土あるもとで吉。ゆ土あれで養命し。
ともとゆ治のゝく。女の月れの月と初あるゆ。たのゝ
東九亟指と。正四七十と歯。中指と二又八十一と歯。
亟指と三六九十二とあはる。雑言び年とのぞゆると。
年十六ゆ女あれで。亟指と十とゝ。中指と一とゝ。

亟指と二とゝ。頭と三とゝ。中と四とゝ。亟とゝ。
亟と六とゝともとで十六ゆ女あるもとで。正月四月
七月十月い月ゝ月あり。但し四ケ月の間ゆ。正月ゆ
月もとで。未れ十月ゆ生もとで七月ゆ月もとで。未る月。
ゆ生あり。但月ゆ月もとで。未る月。
又四月ゆ月もとで。未る正月ゆ生もとで子産月そ。
雑産あるもとでゝ。ゆ。
女あるもとで。亟指と十とゝ。中指と二十とゝ。亟指と
一とゝ。亟指と二とゝ。中指と三とゝ。亟指と
四ケ月月ゝ月と初あり。但し十一月ゆ月もとで。未八月

み生ぬ。強もとだ子死月み毒子い死とれども母い
るーゆくびゆ。けどくゆもとだ。雑産の月またびく
あもども。世間雑産まもあるゆ。母月乃名み
より。通ぬるゆ月。嫌ばい八月み国あもとだ。母月
九十み日と八月ら。十六日と九月ら。月くみ名と
迫ふゆくみ。九月十一月十二月と。最後お毒あゆくみ死
月。母死月子死月子産月も通ぬるゆ。嬢姫の
女。雑産乃月九月初。祝正七月もとだ。み死月六十二日
もとだ。母死月み迫祈ぬもいふ。十一み月もとだ子死月
又ぬみ迫死ぬもいふ。四十み月もとだ子産月ぬく。抱

家ぬりゆゆるゆくみ。母ま月ぬ入もどもぬるーゆくび
と。ぬ月ぬ死ぬり

○法強上人のいぬく。念仏み義と深くぬるゆ。還て
強ぬゆり。業ぬふぬらびぬも。供求だゆも深ぬ。
一宗強生ぬもそん。又ぬ稼ぬ念仏ゆ祝ゆ死と祝
ぬ死。月乃振舞ぬみ月。吾悪とも法ぬ世び。念仏みゆ
世び強生ぬもぬり

おおいみごとのゆーあーぬ。天ぬみ深ふと。
よーといひ。天ぬ月ぬ。ゆーあそむくと。ゆー死といふ天
乃ぬぬぬ。ぬもぬて。初りゆとーぬ。

くれ。生物。うく物とゐるゐ。まれくうゐま
どうも。そまくよ。そぐうも。そまくあ。そこ
物ありいづまもそぐれるあ。分くそま
くあそぐうと。天。ものあ。とまうぐ。
聖人。れうぐ。も。ば和。あ。ば。者
紙れうば。も。ものごと